

(ながつき)

九月（ながつき）ばかり（ながつき）になり（ながつき）て、出て（ながつき）にたるほど（ながつき）に、箱（ながつき）の（ながつき）ある（ながつき）を（ながつき）手まさぐり（ながつき）に（ながつき）

完了「ぬ」用

完了「たり」体

九月ごろになつて、（作者の夫である兼家が）外出した時に、文箱があるのを手慰みに（何気なく）

下二・用 上二・已

開（ながつき）けて見（ながつき）て見（ながつき）れば、人（ながつき）の（ながつき）もと（ながつき）に（ながつき）やら（ながつき）む（ながつき）と（ながつき）し（ながつき）ける文（ながつき）あり（ながつき）。あ（ながつき）さま（ながつき）し（ながつき）さ（ながつき）

接助

格助

格助

格助

格助

開けて見てみると、他の女のもとに届けようとした手紙がある。驚きあきれて、

格助 完了「つ」用

に、見て（ながつき）けり（ながつき）と（ながつき）

副助 受身「る」未

四段・未 意思「む」終

四段・用

格助

下二・終

せめて（私が）見たとだけでも知られようと思つて、書きつけた。

うたがはし

形シク・終

ほか

格助 完了「り」体

上二・已

格助

他の女性に送る手紙を見ると、もう（あなたが）

格助 係助（疑問）

ここにやとだえに

格助 推量「む」終

四段・未

格助 現在推量「らむ」体（結）

「こちら」私のもと（）に来られるのは途絶えてしまつてはいないかと疑わしく思つています

副助

思ふほど

四段・体

形ク・用（ウ音便）

（かみなつき）

十月つごもり方

四段・用

下二・未

打消「ず」体

などと思つているうちに、案の定、十月の末ごろに、三夜連続で姿を見せない時が

あり。つれなう

ラ変・終

副詞

格助

副助

格助

格助

あつた。（夫兼家は）素知らぬ顔で「しばらく（あなたの気持ちを）試している間に（三日も経つて

いました）」などと「思わせぶりな（言い訳をする。こちら）（私の家）から、

タさりつ方、内裏（うち）に（うち）

格助

不可可能「まじ」用

格助接助

接助

接助

夕方、「内裏に断ることのできない用事があるのだよ。」と云つて出かけるので、納得できず、

人をつ（うち）つけ（うち）て見（うち）す（うち）れば、町小路（まちのこうぢ）なる（まちのこうぢ）そこ（まちのこうぢ）に（まちのこうぢ）

下二・用

係助

格助

格助

格助

格助

格助

格助

召使いをつけて見させると、「町小路にあるこれこれにお停まりになりなさいました。」

接助 完了「たり」終

とて来た

格助 力変・用

と云つて帰つて来た。

九月…長月

手まさぐり…手先で何気なくもてあそぶこと

やる…送る

あさましさ…驚いたこと

あきれたこと

だに…せめて…だけでも

書きつく…書きつける

とだえ…とぎれること

むべなし…案の定

十月…神無月

つごもり…月末

見ゆ…姿をみせる

見える…見せる

つれなし…素知らぬ風だ

平然としている

しばし…しばらく

少しの間

けしき…様子

タさりつ方…夕方

のがる…逃げる

心得…理解する

承知する